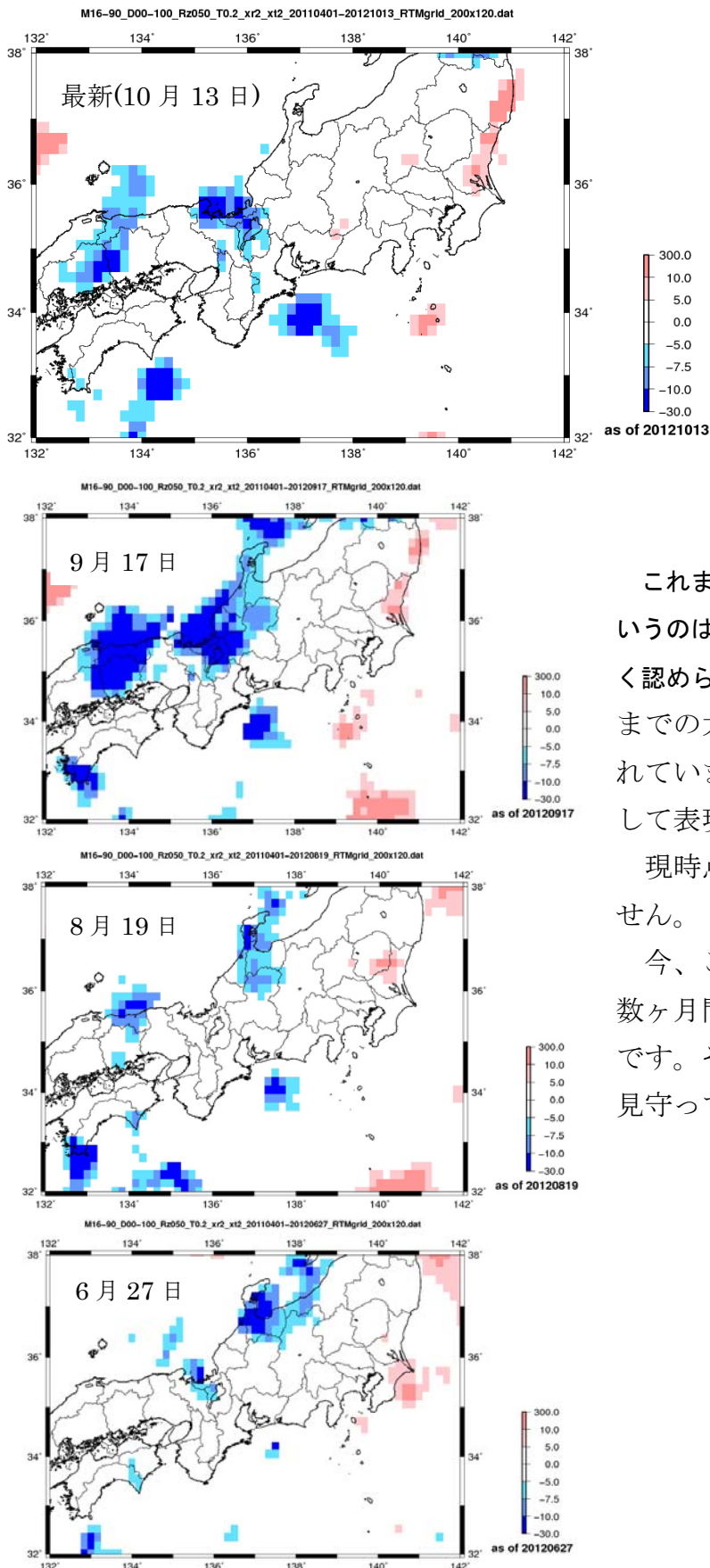


西日本の地震活動変化の続報です。



昨年 3.11 以降、日本列島の地震活動パターンが大きく変わってしまいました。これまでは東北地方の太平洋沖で発生する余震活動が中心でしたが、どうもここ2ヶ月ほど、西日本での地震活動のパターンが大きく変わってきました。

何が一番大きく変化したかと言いますと、6月頃から富山県を中心とした北陸地方で、地震活動が低下しました。さらに地震活動の低下は、若狭湾沿岸から京都府、鳥取県を中心とする山陰地方に広がっています（図中の青色のところ。赤色の所は地震活動が活発な所です）。

これまでも繰り返し述べていますが、地震活動の低下というのは、「地震活動の静穏化現象」と言い、地震学で広く認められている前兆的变化です。静穏化現象はこれまでの大地震で70—80%程度の確率で観測されています。地下天気図©は、この静穏化を可視化して表現する手法です。

現時点で他の短期的な異常は観測されておりません。

今、この図の範囲で一番注目しているのは、数ヶ月間に渡って異常が継続していた富山県周辺です。それと若狭湾から京都にかけても注意深く見守っていきたいと思います。